

暮れの二九日、妻と仲良く？ デパートやスーパーに買い物物のハシゴをした。ある店のレジの横にしめ飾りがたくさん並んでいるのが目に入り、自然に足が向いた。歳を経るごとに感動に鈍感になった大人心にも、やはり正月のしめ飾りは子供時代のうきうきした気持ちを思い出させてくれるものがある。いろいろ物色した後、安くて見栄えの良いものを籠に入れてレジに向かう途中、妻が「来年は成年だから、犬小屋にも飾っては・・・」と言った。それはグッドアイデアと直ぐに賛成、小屋の大きさを考え少し小形のしめ飾りを籠に追加した。

帰宅後さつそく犬小屋に釘を打ち飾ると実に美しい。犬も嬉しそうに私の横で作業の始終を見つめていた。私は綺麗になった犬小屋を見ながら「これは良い事をした。犬も喜んでいるようだし来年はきつと良い年になるだろう。もしかして宝くじでも・・・」と自己満足に浸った。

その後、私の住んでいる小屋のほうにもしめ飾りを付けヤレヤレ、犬小屋をもう一度見に行くと「無い！ しめ飾りが無い！確かに付けたのに・・・」私は一瞬目を疑った。

理由は簡単明瞭、綱を一杯に伸ばした家の横で犬が一心に分解作業中である。飾り付けてわずか十五分、すでに形は無く藁がバラバラ状態になっていた。

どうやら来年も普通の年になりそうだ。暮れのメルマガでこんな記事を読んだ。「寒い思いをし、初日の出をわざわざ見に行き風邪を引く危険にあうよりも、インターネットで世界各地の日の出を見るのが得策である」

確かにわざわざ現地に出向いても曇りで失望・・・を考えると、各地をネットサーフィンした方が良いかもしれない。最近はスポーツでも演劇でも現場に行かないでテレビを観て満足するのがほとんどであるが、初日の出もテレビで良いのは・・・少し不謹慎のような気もするが、パソコンをテレビに接続すれば大きな画面になり、それらしい気分になれるのであれば納得も出来る。

三十一日、シドニー湾や銚子犬吠崎、湯河原などのポイントを調査し朝起きたら直ぐ日の出を拝めるように準備した。その後年末の飲み納めをし、紅白歌合戦などを観たりしている内にすっかり初日詣を忘れて寝入ってしまった、何と元旦は9時に目が覚めた。6時半ごろに目覚まし時計をセットしておけばと悔やまれるが後の祭りだ。私にとって、やはり今年も普通の年になりそうだ、でも普通が一番良いのかもしれない。

## 2 1 ・大相撲 (2006. 1)

大相撲初場所の千秋楽を所用のためテレビ観戦できなかったが、翌朝の新聞を見て驚いた。

あの朝青龍が宙に浮いている写真が載っていたのだ。2004年十一月場所から七場所連続優勝、2005年は年間六場所を完全優勝と慕進中の朝青龍を栃東が投げて、久々に優勝を決めた一瞬である。日本人の優勝は八場所ぶりとのことであるが、少し嬉しい気分になったのは私だけではないと思う。現役を終わってから三度ほど両国国技館で観戦するチャンスがあったが、日本の国技である相撲が外国人力士、朝青龍や琴欧州などの話題でにぎわっているのを見るにつけ、何か寂しい気分になっていた。ふと思ひ、あの日の新聞を古新聞袋から探し出し初場所の星取表で外国人力士を数えてみた。横綱から前頭四番目までの力士の総勢は十七人、その内の九人が外国人であるが一体何が、どこが違うのだろうか。あまり喜んでばかりも居れない気がする。

## 2 2 ・日本人が絶滅？ (2006. 1)

先日の新聞に西暦3300年には日本人がいなくなるという記事があった。まだまだ先のことだと笑ってもいられない心境である。そのグラフによると出生率1・29が続き、外国からの移民が無いと仮定した場合、2100年(二十五年後)には4109万人で現在の三分の一になり、1900年ごろの人口になるらしい。

猪口少子化担当相が、「出産費を国などで全額負担の支援策について検討することは、視野に入る」と発言した、私は政治の適材適所に納得し、実に明快だと感じた。しかし、早速政府から火消し発言が大きくなり、少子化担当相も「考え方が煮詰まった段階では全く無い」と発言を修正した。

政府は出産育児一時金を現在より五万円アップすることを予算案に上げているようだが、これだけ話題になりハッキリしている課題に対し、ほんとにこれだけで良いのかと思ったりする。政府の対策は展望も良く分からないが、迫力に欠けるのではないだろうか。

## 2 3 ・教育する財布の厳しさ (2006. 1)

アメリカの教育政策研究所が多くの研究者の協力を得て調査したらしい。先進十六カ国の、国民から見て大学に進学しやすい国かどうかについて、授業料、生活費、税制などいろんなファクターを考慮し算出したらしい。

結果は十六番目の最下位、政府はそれはおかしいと言うかもしれないが、どう

やら日本の親の財布が厳しいという実態かもしれない。家計の負担は OECD（経済協力開発機構）三十カ国平均の二倍との事である。ジャパン イズ ナンバーワンと言われたことがあったという空しさや危機感を感じてしまう。

#### 24・性悪説「人を見たらドロボーと思え」（2006.1）

昔から毎年毎年、想定外のことが、これでもか、またか・・・とばかりに起きる。昨年（2005）、アメリカのハリケーン、パキスタンの地震、イラクやバリ島のテロ、中国の反日デモ、JR宝塚線の脱線、通学児童の犠牲、小泉自民党の圧勝、耐震偽装、羽越線の突風脱線事故・・・と数え切れないほどある。

今年も早くも一ヶ月が過ぎたが想定内、想定外の喜怒哀楽がたくさん起こるにちがいない。年末から続いている豪雪、耐震偽装、米産牛肉輸入、ライブドアでガタガタしていると思ったら、東急インの検査後改造問題で社長があっけらかんと悪気の無い会見、関係者の証言によるとどうやら日常化らしく開いた口がふさがらない。性善説の私も今年からは性悪説に切り替えようかと思ったりする。

#### 25・ホリエモン（2006.1）

書店に行くとホリエモンの書いた本がたくさん並んでいる。でも逮捕前に比べると数が減っているように感じる。私は一冊も読んだことは無いが、今回の事件の前まではTシャツ姿で微笑みながら分かりやすく大胆に話すホリエモンに対し好感を持っていた。世の中を元氣付け、明るくする貴重な人材、現代のリーダー像を見る思いでテレビを観ていた。古新聞袋から過去の新聞を取り出し、ホリエモンの呼び名を拾ってみた。

挑戦者、IT長者、改革の旗手、ネット界の寵児、時代の顔、救世主・・・昨年「2005」の新人社員調査によると理想の社長のナンバーワンに選ばれたらしい。どうやら好感を持ったのは国民の大多数だったようだ。実に残念な思いがする。

